

【担当教員】

湯川 高志

【教員室または連絡先】

総合研究棟510号室  
Email:yukawa@vos.nagaokaut.ac.jp

【授業目的および達成目標】

＜授業目的＞

これからの社会の担う人材に求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報通信技術（機器・サービス・教材）の活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。

＜達成目標＞

- ・これからの社会を担う人材に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解している。
  - 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。
  - これからの社会を担う人材に求められる資質・能力がどのようなものであるかを理解している。
  - これからの社会を担うための資質・能力を持った人材を育成するための教育方法のあり方（主体的学び・答えが必ずしもひとつではない問題解決に基づく学び等）およびそのための情報通信技術の活用と意義を理解している。
  - 授業を構成する基礎的な要件を理解している。
  - 学習評価の基礎的な考えを理解している。
- ・教育の目的に適した指導技術を理解し、身につけている。
  - 話法・板書など、授業を行なう上で基礎的な技術を身につけている。
  - 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材、授業展開、学習形態、評価基準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。
- ・情報通信技術を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成に視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につけている。
  - 情報通信技術を活用して、学習者に主体的かつ協動的に学ばせるなど、効果的な授業の指導計画やそれに対応した教材を作成することができる。
  - 学習者の情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。
  - 特別の支援を必要とする生徒に対する情報通信技術の活用の意義と活用にあたっての留意点を理解している。
  - ICT支援員などの外部人材や大学等との外部期間との連携の在り方、学校におけるICT環境の整備の在り方を理解している。
  - 統合型校務支援システムを含む業務への情報通信技術の活用についての世界および国内における動向と、これからの活用の在り方について理解している。

学習・教育目標

J. これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報通信機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。

【授業キーワード】

教育方法、教育工学、学習指導法、ブルームタクソノミ、アクティブラーニング、ルーブリック評価、情報通信技術、eラーニング、実務経験

【授業内容および授業方法】

これからの社会の担う人材に求められる資質・能力とはどのようなものから説き起こし、それらを育成するための教育方法であるアクティブラーニング、プロブレムベースラーニング、反転授業などの方法論とそれらへの情報通信技術の活用について講述し、それらに対応した学習効果の評価方法についても解説する。それらを踏まえた学習指導案の構成とeラーニング教材の設計に向けたインストラクショナルデザインについて解説する。さらに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導および生徒の情報活用能力を育成するための指導法に関する知識として、情報技術を用いた教材、情報機器、情報サービス、学習管理システム、校務システムについて概観するとともに、eラーニングの通常の授業および特別に支援を必要とする生徒向けの授業への活用について講述する。

【授業項目】

- 1) 教育方法の基礎と授業の基礎的な要件
- 2) これからの社会を担う人材に必要な資質・能力（4つのC）
- 3) 授業を構成する基礎的な要件
- 4) これからの社会を担う人材に求められる資質・能力を育成するための教育方法（1）アクティブラーニングと反転授業およびそれらへの情報通信技術の活用
- 5) これからの社会を担う人材に求められる資質・能力を育成するための教育方法（2）プロブレムベースラーニング（PBL）とそれへの情報通信技術の活用
- 6) 学習の評価手法（ブルームタクソノミーとルーブリック）
- 7) 学習指導案の構成とeラーニングの授業設計に向けたインストラクショナルデザイン
- 8) 話法、板書、および、情報機器活用の基礎
- 9) プログラミング教育と情報モラル教育の指導法
- 10) 情報通信技術の授業での活用（1）情報技術を活用した教材，授業で活用できる情報機器
- 11) 情報通信技術の授業での活用（2）授業で活用できるネットワーク・サービス
- 12) eラーニングの活用（1）eラーニングの様々な形態，eラーニング教材の制作手順，外部機関との教育連携，特別に支援を必要とする生徒に対する授業の活用
- 13) eラーニングの活用（2）学習管理システム（Learning Management System, LMS）と校務システム
- 14) ラーニングアナリティクス
- 15) 情報セキュリティ

### 【授業時間外学習（予習・復習等）】

ILIAS上に掲載された講義資料を事前にダウンロードし読んでおくこと。  
授業の後に、ILIAS上で小テストを実施することがある。

### 【教科書】

市坪 誠，油谷 英明，小林 淳哉，下郡 啓夫，本江 哲行「授業力アップ アクティブラーニング：グループ学習・ICT活用・PBL」，実教出版（2016）

### 【参考書】

- ・ 佐藤学『教育の方法』，左右社，2010年
- ・ 田中耕治他『新しい時代の教育方法』，有斐閣，2012年
- ・ 水越敏行他『これからの教育とメディアの教育』，図書文化，2005年

### 【成績の評価方法と評価項目】

試験（50%）と授業中に課すレポートやグループワーク（50%）で評価する。

### 【留意事項】

「その場において実例等について考え，話し合いに参加する」ことを重視する。  
（「教師になる」という当事者意識をもって参加・参画すること）

### 【参照ホームページアドレス】

<http://cera-e1.nagaokaut.ac.jp/ilias/>

### 【備考】

実務経験のある教員等による授業科目